

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3870104100		
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミリー		
事業所名	グループホーム ファミール立花		
所在地	松山市立花1丁目1-23 (電話) 089-933-7255		
管理者	村上 文広		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町3丁目8-15		
訪問調査日	5月21日	評価確定日	7月11日

## 【情報提供票より】(19年4月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 5月 31日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤15人, 非常勤6人, 常勤換算9.25人

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (3) 利用者の概要(4月15日現在)

利用者人数	18名	男性	10名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.6歳	最低	69歳	最高	96歳

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり・(なし)	短期利用型共同生活介護
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地近くに建てられたホームで、比較的密集した住宅地の中にある。軽量鉄骨2階建てに1階と2階で2ユニットがある。屋内はゆったりしており、車いすでの移動も楽である。開設して3年が経過し、利用者一人ひとりに安定したサービスが提供されており、利用者も安定した生活を送っている。職員の異動も少なく、管理者をはじめ職員は常に質の向上に務め、問題点を把握し、実践することの必要性を理解している。症状の進んだ方も入居されているが、個々に合った対応をしており、本人や家族の希望に添っている。

## 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
地域との連携が不十分であることについての取り組みはあまり進んでいない。運営推進会議の開催等から実践していくことを期待する。介護度が高くなる利用者等にとって望ましい環境について職員間で検討することを期待する。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
全員で時間をかけて取り組むことはできていないが、自己評価の意義は理解している。また管理者は問題点もきちんと理解しており、改善に向けた取り組みを期待できる。外部評価と共に具体的な計画を立てて実践することを期待する。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
会議はまだ1回の開催だが、メンバーには利用者、家族、地域の方々も参加している。議題は運営推進会議の説明、ホームの紹介をし、今後は地域交流の必要性和方法を問題提起する。今後は災害時の協力体制について検討することを希望する。また会議で出された意見は引き続き検討を重ねることを期待する。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
家族の意見は面会時や電話連絡時をはじめ、書類送付時に確認している。家族の交流は年2回程度行事の後で行っているが、さらなる検討を期待したい。苦情はホーム内や公的なものを具体的に明示したり書類にして伝えているので、申し出があった時は早急な対応をし、必要に応じて開示することを期待する。
▼ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
行事の参加等が主で、まだ日常的な交流はできていない。町内活動、学校や地域の行事等から関わりをもつことを期待する。またホームの特徴をもった活動となることを期待する。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)  
氏名 村上 文広

評価完了日 平成19年 6月12日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 作っている。  (外部評価) 開設して3年、理念に添った介護に努めているが、地域の中で利用者がのびのびと暮らし続けるとい視点にたった理念の見直しはまだしていない。	※	理念をもっと具体的なもので分かりやすくしたほうが良いとの指摘もあるので、今後検討していきたい。  地域の中で利用者が主体的に生活できるような理念について、職員間で話し合い、具体的な目標や行動計画が検討されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌やロビーに理念を明記して普段から意識しやすいようにしているのと、カンファレンスやケアプラン作成時の基本的下地になっている。  (外部評価) 管理者と職員は会議や日々の仕事の中で理念を話し説明している。日誌やロビーに理念を明記して意識付けている。	※	自然と意識できるような機会を増やすようにして、理念の実現に取り組んでいきたい。  個々のケアについても、職員間の話し合いで理念に添ったものとなるよう期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のときに理念の話をしたり、ホームページの中に理念の記載もあるが、積極的に理念について理解してもらうような取り組みはできていない。		もっと地域との関係が深まれば自然と理念についても理解していただけるようになると思うが、それがまだまだ不十分なので少しずつでも地域の中に溶け込めるような働きかけをしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 年に1回ホームで花火をする時に近所に声をかけるようにしているが、他はあいさつ程度で、日常的な付き合いとまではなっていない。		ホーム近くの住民が職員として数名いるので、そこからでも徐々に日常的な付き合いを広げていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭は声をかけていただいて部分的に参加させていただくこともあるが、他の事はできていない。  (外部評価) 地方祭には声をかけてもらい参加したが、普段は地域の人々とは散歩や外出時にあいさつする程度である。	※	少しずつでも交流を増やす努力をしていきたい。  自治会活動、保育園や学校・地域の行事、ボランティア活動等積極的に参加することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域交流自体がまだ十分でないので、地域の高齢者に対する取り組みはできていない。		地域交流が進めば、自然とそういう機会も増えてくると思うので、まずは地域との交流の機会をふやすことから始めていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分でないができることから改善して行こうとしている。  (外部評価) 評価の意義を全職員が理解している。自己評価への取り組みは時間的制限があり充分とはいえないが努力している。評価の結果はケアの見直しに利用する。また機会ごとに評価改善を実践していくことを期待する。		全てここに書かれてあるようにはできないが、より良いサービスを提供する指針になっているので、定期的な反省や見直しの良い機会だと考え、今後も評価を参考にしできることから改善していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の初回開催が遅かったので、まだ十分機能していません、サービス向上に活かされるのはこれからだと思う。  (外部評価) 利用者・家族も構成メンバーに入っており、活発な会議となることを期待しているが、まだ1回の開催のため、充分機能させるため今後積極的に取り組む予定である。	※	外部の目が定期的に入ることで、一定のサービスレベルの維持につながるため、今後はこれをより良いサービスができるように活かしていきたい。  利用者・家族、地域の方々の意見や、ホーム側の報告等継続的に活発な会となり、質の向上となるよう期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ報告や話し合いを行っている。  (外部評価) 運営推進会議の他に、手続き関係やその他必要時の報告、連絡等はしているが、まだ充分とはいえない。	※	担当窓口をはじめ、ことあるごとに顔を出したり連絡してホームの特徴をPRしたり相談することを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) Bユニットに2名成年後見制度を利用している人がいて、うち1名は入居後必要と感じ制度を利用し始めた。Aユニットは、まだ制度利用者はいませんが、必要とおもわれる人にはこういう事業や制度があることを話すようにしている。		特に地域権利擁護事業については詳しく知らない職員がほとんどなので、今後研修に参加するなどして学んでいきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス時に話しをしたりして虐待防止に努めている。		継続して学ぶ機会を持つなどし、常に意識していくようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様に行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会時に様子を伝えたり、掲示板に日常の様子を撮った写真を貼ったり、時々家族にも写真を印刷し送っている。金銭管理についても面会時に確認してもらっている。 (外部評価) 家族の面会時に様子を伝えたり、行事等の写真を送ったりしている。金銭管理ができていない人は小額を預かりノートで管理し、家族に確認してもらっている。家族同士の交流は少ないが、年2回程度行事に出席した際の交流時間は設けている。職員の異動等は影響がある場合もあり、基本的には伝えていない。	※	家族会はまだ結成していないが、何らかの形で積極的に家族間交流の場を持つことを期待する。面会の少ない家族へは、よりきめ細かい対応策を期待する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。 (外部評価) 利用開始時に、ホーム内や外部へ意見や苦情を表すための連絡方法等を具体的に示している。定期的に家族の意見等を聞くためにアンケート等も利用している。面会時の対応も話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにしており、その時に意見や提案を聞くようにして、反映できる事については対応するようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 同様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 重要な職員の異動がなく、職員の退職も比較的少ないが、交替した場合はできるだけ人員のゆとりが持てるよう勤務状況を配慮し、ケアが途切れることのないよう情報共有に努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて計画的には行えていないが、研修の機会があれば必要と思われる職員には受けてもらうようにしている。また、参考になりそうな研修の案内が来たときは掲示している。  (外部評価) 必要と思われる研修は個々の職員に働きかけている。また研修によっては参加費をホームが負担することもある。また研修案内は全職員が見られる場所に掲示している。	※	段階ごとに計画して行うようにしていきたい。  職員採用時、オリエンテーションや技術経験用のチェックリストを作成し、計画的に職員教育に取り組むことを期待する。また研修後の報告や伝達の方法も検討し、全職員で共有できる方法を期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他の施設に知人がいる職員同士での情報交換は見られるが、相互訪問等は行っていない。  (外部評価) 知人や研修で知り合った方とは情報交換ができていますが、他の方法はまだできていない。	※	相互訪問は今のところ考えていないが、研修等に参加した時に情報交換ができるので、そういう機会はできるだけ増やしていきたい。  近隣施設やホームとの勉強会や相互訪問等はまだまだ検討が難しい。しかし研修会等での情報交換を通じて自分のホームのレベルを知ったり問題解決のヒントを得ることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士の交流会を提案したりしているが、職場環境については施設の構造上や経営上の制約からまだ不十分なことが多いと思う。		今後もできることから少しずつでも改善して行くよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 十分でないがそのように努めている。		職員が継続して向上心を持って働き続けられるよう努力したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要と思われる利用者には同様にしている。 <hr/> (外部評価) 利用者の所に管理者や職員が訪問し情報交換したり、本人がホーム訪問や体験入居して話し合ったりしている。また家族の協力も得ている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。 <hr/> (外部評価) 利用者の身体機能がだんだん低下してきているが、職員は共に生活するというを大切に、努力目標として意識している。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいといけいないものでもあるのでそうしていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいといけいないものでもあるのでそうしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 現在そういった関係の利用者、家族はいない。		必要としている利用者や家族とはそうしていくつもりである。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 利用者同士や職員との日常の会話からヒントを得たり、行動から把握するよう努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 同様にしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 利用者個々に担当の職員がおり、カンファレンス等で情報や意見を出している。本人や家族の意見は介護計画に反映し、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 介護計画の見直しは定期的に行っており、変化時は見直している。見直した介護計画は家族の同意は得ているが、内容については充分ではない。	※	面会の少ない家族へは、様式に記入場所を設ける等して事前に要望や意見を聞く方法を検討することを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り対応している。  (外部評価) 今までのかかりつけ医への受診や対応、かかりつけの理美容院へ訪れる等ホームで対応している。タクシー等を利用する以外は今のところ利用料は無料である。健康面の管理は必要時の協力医の往診や訪問看護等で対応できている。	※	職員が外部への受診や用事をするために対応する時の経費等について、無料ではなくルールを作ることも長続きするポイントと思われるので、検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 現在特に当てはまる例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて同様におこなっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議での係わりがあるが、現在具体的にそういう例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 利用者や家族の希望に添ってのかかりつけ医の受診を続けている。緊急時はかかりつけ医との連携の元に適切な医療が受けられるよう支援している。協力医は頻回に往診しており、訪問看護等も利用している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) できるだけ早い段階というわけではないが、必要と考えられる場合には同様に話し合いをしている。  (外部評価) 重度化したり終末期のあり方について話し合い「看取りについての同意書」を作成している。また延命治療等について家族等の意見を文書化している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 同様にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同様にしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 同様の対応を心がけているが、言葉遣いが友達言葉のようになることもある。  (外部評価) 誇りを損ねないように対応は気をつけているが、まだまだ注意や訓練が必要と職員は気づいている。カンファレンスでは利用者への対応について具体的な事例を検討している。	※	お互いに注意しあうようにしていたり、毎月のカンファレンスの時に利用者への対応についてなど、振り返り注意するようにしている。  言葉や行動は正しく学び、お互いに配慮することが望ましい。また記録類は記入の仕方、保管の仕方等具体的に検討を続けることを期待する。早急に面会簿等の取り扱いについても検討を期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上の制約もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら出来る範囲で個人のペースを大切にしている。  (外部評価) ある程度の生活のリズムを保ちながら個人のペースを大切にしている。その人らしさを活かすために、その人のその日の望みを知るよう努めている。		工夫次第で、今以上に個人のペースに合わせられることも出来ると思うので、そのように努力していきたい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) あまり遠くの店の場合は近くの店に変更する場合もあるが、同様にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度の要介護者の割合が多くなり、参加できる人が少なくなってきていて、参加できることも少なくなってきているので、部分的に準備や片付けに参加してもらっている感じになっている。  (外部評価) 症状が進み、一緒に食事をしたり準備や後片づけ等することが難しくなった人もいるが、できるだけ一緒に同じものを取ることを心がけている。経管栄養の方やミキサー食やとろみ食等の方への支援もしている。食事に長時間を要する方にもその人のペースで支援している。		準備や片付け等、参加できる利用者にはできるだけ継続し参加していただくように働き続ける。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体重管理や医療面での制限がある場合もあるが、同様にしている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) これまでの排泄パターンから時間誘導するなどし、失敗を少なくするような対応はしている。オムツの使用を減らすことは、状態を見ながらできそうなことがあると思う。		オムツの使用を減らすことは工夫次第でまだできそうなので、今後も改善できることはしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 何かしら援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上すべて本人の希望どおりにはできていない。  (外部評価) 基本的には午後入浴を計画しているが、順番等希望を聞いて調整している。支援が必要な方がほとんどのため、ゆったりと入浴できるよう注意している。		利用者の希望も取り入れながら、できる範囲で個々の希望を取り入れていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 一人ひとりの生活歴や希望を家族の協力を得ながら知り、その人らしい生活ができるよう支援している。園芸の水遣り、簡単な料理の準備や後片づけ、洗濯物たたみ、居室の掃除や整理、散歩や買い物、おしゃべりやテレビ観賞等している。		工夫することで内容の充実を図れるようにしていきたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望に添っての外出は、職員の体制や家族等の協力が急には取れないことも多く、希望どりの外出になっていないことも多い。また、外出を希望する方も限られてきている。  (外部評価) 症状が進んで外に出たがらない利用者もいるが、できるだけ外出の機会をつくり、散歩等で戸外に出るよう支援している。しかし、職員体制や急な利用者への対応等で希望に添えない時もあるが、できるだけ時間を設けて応じる努力をしている。		特に希望が出ない方にも外出の機会を作り、戸外に出かけるようにしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 十分でないかもしれないが、そういう対応をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 同様にしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンスで取り上げたこともあり、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむ終えない場合は家族と話し合い必要最小限の方法にし、拘束廃止に向けて定期的に話し合いを持つようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 同様に取り組んでいる。  (外部評価) 玄関は昼間開錠しており、職員は利用者個々の行動を把握している。また必要時、職員の一人は入口近くにいるように連携プレーができており、現在は利用者は落ち着いている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 同様にしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個人の状態に合わせて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 基本的な応急手当の講習や消防訓練は年1回は行っているが、実際にその様な事態になった時に全職員が落ち着いて対応できるほどにはなっていないと思う。		回数を重ねることでより落ち着いて対応できるようになると思うので、繰り返し講習や訓練を行っていきたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との協力関係作りがまだほとんどできていない。  (外部評価) ホーム内での訓練は昼夜とも実施し、マニュアルも作成しているが、地域との協力関係づくりはまだできていない。	※	地域の人々の協力を得るための働きかけがまだ不十分なので、今後交流をしていくことで協力を得られるような関係作りをしていきたい。  地域の人々の協力を得るための働きかけを早急に検討することを期待する。運営推進会議等で具体的に問題提起し、協力案をつくり進めることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 理解力の低下や運動機能の低下から事故につながる可能性が高かったり、病状が急変する可能性がある方など状態の変化に応じて家族と対応について相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定だけでなく普段との様子の違いに注意するようにし、何か気がついた時は申し送りノートに記入するなどして情報を共有し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬について、薬局から出されている説明文を個人ファイルに閉じてあり、必要に応じて確認できるようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り各利用者の傾向をつかむと同時に、食事や運動だけでは排便につながらない場合の下剤の使用量や使用間隔の参考にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の形態や水分摂取の回数など個別の対応が必要な方にはその様に対応している。  (外部評価) 食事のメニューは職員が交代で作成している。食事の摂取量や水分量はおおまかに把握しており、体重の変化や医療機関のチェックでも管理している。制限食の方は医師の指導で主食の量を加減したり調理に少し工夫したりしている程度である。	※	季節ごと(年4回)に栄養士にカロリー計算等してもらい、栄養バランス等を数値として把握しておくことを期待する。特に制限食の方は管理が必要となるため栄養士の助言を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 使い捨て手袋を使用したり、ペーパータオルを使用したりと、一般的な感染症対策マニュアルを参考に、ホームで実現可能なマニュアルを作り対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理器具は漂白殺菌等をし、食器類は食器乾燥機で乾燥し、食材についても毎日買物に行き、買い溜めや翌日までの作り置きというのも基本的にしないようにしている。材料の賞味期限も随時確認している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関入り口は緩やかな勾配でスロープ状にしていて手摺を取り付けており、玄関周りに草花を植えて親しみやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂・居間がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。 (外部評価) 廊下、居室は広くゆったりしており、ソファや椅子でくつろげる場所が複数ある。植物や絵が飾ってあり、落ち着いたスペースとなっている。食堂はオープンで食事の準備の様子を身近に感じることができる。浴室、トイレ、洗面所、洗濯スペース等物の配置も工夫しており、危険物への配慮もされている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものであれば馴染みの物を自由に持込んで構わないようにしているので、以前使用していたベッドや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。 (外部評価) 利用者の個性が出ており、箆笥、テレビ、洋服かけ、カーペット、人形や花等の飾り類、絵・写真・書等が配置されている。家庭で使用していたベッドや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 同様にしている。		
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内の広さや廊下の幅などは車椅子も利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差もなるべく無くすようにしている。またトイレ・浴室・廊下に手摺を取り付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 共同で利用する場所や個人の居室に名前の表示をし、各所にカレンダーや時計を設置し日時も確認しやすいようにしている。また、個人的にも混乱や失敗を少なくする対応を心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭に物干し場や菜園があり、利用者と一緒に洗濯物を干したり、野菜を植え一緒に育てたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているので、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時などはゆったりと過ごせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	Aユニットは介護度の高い利用者の割合が多いので、本人のペースの割合が少なくなっている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつもとはいかないが、寝たきりの利用者も職員の働きかけで笑顔が見られたりしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族の事情と職人体制上の事情で必ずしも行きたい所へ行くことは出来ない。ただ、本人の意思確認が困難な利用者も車イス介助で近所に出かけたりする機会を作っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	平日は、ほぼ毎日訪問診療医の往診があり、24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることができるようになっているので、主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能にはなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできていると思っているが、家族が本当はどう思っているかは分からない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、それ以外の地域の方の訪問はあまり無い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている ③ ③あまり増えていない 4 全くいない	この前に第1回の運営推進会議が行われたような状況なので、交流が拡がったというのはまだないが、これまでも町内会の方が地区のお祭りや行事の案内をしてくれたりというのにはあった。
98	職員は、生き活きと働いている	① ①ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての職員が個々の健康状態や家庭の事情などで、何らかのストレスを抱えているだろうし、仕事上でも何らかのストレスを抱えていると思うが、仕事ではそういったことを見せないように明るい雰囲気を作るよう努力して働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者自身のあきらめのような納得があるのかもしれないが、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	これも上記と同じく、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価) グループホームは家庭的といっても、一般的な認識ではやはり施設と考えられているので、やはり家庭的な雰囲気というものを大切にしていきたい。どうしても施設に近づいて行事や普段の生活も集団行動的になっていく傾向があると思うので、安心してくつろげる家庭という雰囲気を大切にしていきたい。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)  
氏名 村上 文広

評価完了日 平成19年 6月12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 作っている。  (外部評価) 開設して3年、理念に添った介護に努めているが、地域の中で利用者がのびのびと暮らし続けるとい視点にたつた理念の見直しはまだしていない。	※	理念をもっと具体的なもので分かりやすくしたほうが良いとの指摘もあるので、今後検討していきたい。  地域の中で利用者が主体的に生活できるような理念について、職員間で話し合い、具体的な目標や行動計画が検討されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌やロビーに理念を明記して普段から意識しやすいようにしているのと、カンファレンスやケアプラン作成時の基本的下地になっている。  (外部評価) 管理者と職員は会議や日々の仕事の中で理念を話し説明している。日誌やロビーに理念を明記して意識付けている。	※	自然と意識できるような機会を増やすようにして、理念の実現に取り組んでいきたい。  個々のケアについても、職員間の話し合いで理念に添ったものとなるよう期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のときに理念の話をしたり、ホームページの中に理念の記載もあるが、積極的に理念について理解してもらうような取り組みはできていない。		もっと地域との関係が深まれば自然と理念についても理解していただけるようになると思うが、それがまだまだ不十分なので少しずつでも地域の中に溶け込めるような働きかけをしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 年に1回ホームで花火をする時に近所に声をかけるようにしているが、他はあいさつ程度で、日常的な付き合いとまではなっていない。		ホーム近くの住民が職員として数名いるので、そこからも徐々に日常的な付き合いを広げていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭は声をかけていただいて部分的に参加させていただくこともあるが、他の事はできていない。  (外部評価) 地方祭には声をかけてもらい参加したが、普段は地域の人々とは散歩や外出時にあいさつする程度である。	※	少しずつでも交流を増やす努力をしていきたい。  自治会活動、保育園や学校・地域の行事、ボランティア活動等積極的に参加することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域交流自体がまだ十分でないので、地域の高齢者に対する取り組みはできていない。		地域交流が進めば、自然とそういう機会も増えてくると思うので、まずは地域との交流の機会をふやすことから始めていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分でないができることから改善して行こうとしている。  (外部評価) 評価の意義を全職員が理解している。自己評価への取り組みは時間的制限があり充分とはいえないが努力した。評価の結果はケアの見直しに利用する。また機会ごとに評価改善を実践していくことを期待する。		全てここに書かれてあるようにはできないが、より良いサービスを提供する指針になっているので、定期的な反省や見直しの良い機会だと考え、今後も評価を参考にすることができることから改善していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の初回開催が遅かったので、まだ十分機能していません、サービス向上に活かされるのはこれからだと思います。  (外部評価) 利用者・家族も構成メンバーに入っており、活発な会議となることを期待しているが、まだ1回の開催のため、充分機能させるため今後積極的に取り組む予定である。	※	外部の目が定期的に入ることで、一定のサービスレベルの維持につながるのを、今後はこれをより良いサービスができるように活かしていきたい。  利用者・家族、地域の方々の意見や、ホーム側の報告等継続的で活発な会となり、質の向上となるよう期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ報告や話し合いを行っている。  (外部評価) 運営推進会議の他に、手続き関係やその他必要時の報告、連絡等はしているが、まだ充分とはいえない。	※	担当窓口をはじめ、ことあるごとに顔を出したり連絡してホームの特徴をPRしたり相談することを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在2名成年後見制度を利用している人がいて、うち1名は入居後必要と感じ制度を利用し始めた。必要とおもわれる人にはこういう事業や制度があることを話すようにしている。		特に地域権利擁護事業については詳しく知らない職員がほとんどなので、今後研修に参加するなどして学んでいきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス時に話しをしたりして虐待防止に努めている。		継続して学ぶ機会を持つなどし、常に意識していくようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様に行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 面会時に様子を伝えたり、掲示板に日常の様子を撮った写真を貼ったり、時々家族にも写真を印刷し送っている。金銭管理についても面会時に確認してもらっている。 (外部評価) 家族の面会時に様子を伝えたり、行事等の写真を送ったりしている。金銭管理ができにくい人は小額を預かりノートで管理し、家族に確認してもらっている。家族同士の交流は少ないが、年2回程度行事に出席した際の交流時間は設けている。職員の異動等は影響がある場合もあり、基本的には伝えていない。	※	家族会はまだ結成していないが、何らかの形で積極的に家族間交流の場を持つことを期待する。面会の少ない家族へは、よりきめ細かい対応策を期待する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。 (外部評価) 利用開始時に、ホーム内や外部へ意見や苦情を表すための連絡方法を具体的に示している。定期的に家族の意見等を聞くためにアンケート等も利用している。面会時の対応も話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにしており、その時に意見や提案を聞くようにして、反映できる事については対応するようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 同様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 重要な職員の異動がなく、職員の退職も比較的少ないが、交替した場合はできるだけ人員のゆとりが持てるよう勤務状況を配慮し、ケアが途切れることのないよう情報共有に努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて計画的には行えていないが、研修の機会があれば必要と思われる職員には受けてもらうようにしている。また、参考になりそうな研修の案内が来たときは掲示している。  (外部評価) 必要と思われる研修は個々の職員に働きかけている。また研修によっては参加費をホームが負担することもある。また研修案内は全職員が見られる場所に掲示している。	※	段階ごとに計画して行うようにしていきたい。  職員採用時、オリエンテーションや技術経験用のチェックリストを作成し、計画的に職員教育に取り組むことを期待する。また研修後の報告や伝達の方法も検討し、全職員で共有できる方法を期待する。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他の施設に知人がいる職員同士での情報交換は見られるが、相互訪問等は行っていない。  (外部評価) 知人や研修で知り合った方とは情報交換ができているが、他の方法はまだできていない。	※	相互訪問は今のところ考えていないが、研修等に参加した時に情報交換ができるので、そういう機会はできるだけ増やしていきたい。  近隣施設やホームとの勉強会や相互訪問等はまだまだ検討が難しい。しかし研修会等での情報交換を通じて自分のホームのレベルを知ったり問題解決のヒントを得ることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士の交流会を提案したりしているが、職場環境については施設の構造上や経営上の制約からまだ不十分なことが多いと思う。		今後もできることから少しずつでも改善して行くよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 十分でないがそのように努めている。		職員が継続して向上心を持って働き続けられるよう努力したい。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要と思われる利用者には同様にしている。 <hr/> (外部評価) 利用者の所に管理者や職員が訪問し情報交換したり、本人がホーム訪問や体験入居して話し合ったりしている。また家族の協力も得ている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。 <hr/> (外部評価) 利用者の身体機能がだんだん低下してきているが、職員は共に生活するというを大切に、努力目標として意識している。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいといけいないものでもあるのでそうしていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいといけいないものでもあるのでそうしていきたい。
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 現在そういった関係の利用者、家族はいない。		必要としている利用者や家族とはそうしていくつもりである。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 利用者同士や職員との日常の会話からヒントを得たり、行動から把握するよう努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 利用者個々に担当の職員がおり、カンファレンス等で情報や意見を出している。本人や家族の意見は介護計画に反映し、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 介護計画の見直しは定期的に行っており、変化時は見直している。見直した介護計画は家族の同意は得ているが、内容については充分ではない。	※	面会の少ない家族へは、様式に記入場所を設ける等して事前に要望や意見を聞く方法を検討することを期待する。
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り対応している。  (外部評価) 今までのかかりつけ医への受診や対応、かかりつけの理美容院へ訪れる等ホームで対応している。タクシー等を利用する以外は今のところ利用料は無料である。健康面の管理は必要時の協力医の往診や訪問看護等で対応できている。	※	職員が外部への受診や用事をするために対応する時の経費等について、無料ではなくルールを作ることも長続きするポイントと思われるので、検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 現在特に当てはまる例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて同様におこなっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議での係わりがあるが、現在具体的にそういう例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 利用者や家族の希望に添ってのかかりつけ医の受診を続けている。緊急時はかかりつけ医との連携の元に適切な医療が受けられるよう支援している。協力医は頻回に往診しており、訪問看護等も利用している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) できるだけ早い段階というわけではないが、必要と考えられる場合には同様に話し合いをしている。  (外部評価) 重度化したり終末期のあり方について話し合い「看取りについての同意書」を作成している。また延命治療等について家族等の意見を文書化している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 同様にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同様にしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 同様の対応を心がけているが、言葉遣いが友達言葉のようになることもある。  (外部評価) 誇りを損ねないように対応は気をつけているが、まだまだ注意や訓練が必要と職員は気づいている。カンファレンスでは利用者への対応について具体的な事例を検討している。	※	お互いに注意しあうようにしていたり、毎月のカンファレンスの時に利用者への対応についてなど、振り返り注意するようにしている。  言葉や行動は正しく学び、お互いに配慮することが望ましい。また記録類は記入の仕方、保管の仕方等具体的に検討を続けることを期待する。早急に面会簿等の取り扱いについても検討を期待する。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上の制約もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら出来る範囲で個人のペースを大切にしている。  (外部評価) ある程度の生活のリズムを保ちながら個人のペースを大切にしている。その人らしさを活かすために、その人のその日の望みを知るよう努めている。		工夫次第で、今以上に個人のペースに合わせられることも出来ると思うので、そのように努力していきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) あまり遠くの店の場合は近くの店に変更する場合もあるが、同様にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) Aユニットに比べると重度の要介護者の割合が少ないが、参加する人が決まってきたり、参加しようとされない人は能力的にはできても参加していない状況がある。  (外部評価) 症状が進み、一緒に食事をしたり準備や後片づけ等することが難しくなった人もいるが、できるだけ一緒に同じものを取ることを心がけている。経管栄養の方やミキサー食やとろみ食等の方への支援もしている。食事に長時間を要する方にもその人のペースで支援している。		準備や片付け等、参加できる利用者にはできるだけ継続し参加していただくように働き続ける。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体重管理や医療面での制限がある場合もあるが、同様にしている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) これまでの排泄パターンから時間誘導するなどし、失敗を少なくするような対応はしている。オムツの使用を減らすことは、状態を見ながらできそうなことがあると思う。		オムツの使用を減らすことは工夫次第でまだできそうなので、今後も改善できることはしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 何かしら援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上すべて本人の希望どおりにはできていない。  (外部評価) 基本的には午後入浴を計画しているが、順番等希望を聞いて調整している。支援が必要な方がほとんどのため、ゆったりと入浴できるよう注意している。		利用者の希望も取り入れながら、できる範囲で個々の希望を取り入れていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 一人ひとりの生活歴や希望を家族の協力を得ながら知り、その人らしい生活ができるよう支援している。園芸の水遣り、簡単な料理の準備や後片づけ、洗濯物たたみ、居室の掃除や整理、散歩や買い物、おしゃべりやテレビ観賞等している。		工夫することで内容の充実を図れるようにしていきたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望に添っての外出は、職員の体制や家族等の協力が急には取れないことも多く、希望どりの外出になっていないことも多い。また、外出を希望する方も限られてきている。  (外部評価) 症状が進んで外に出たがらない利用者もいるが、できるだけ外出の機会をつくり、散歩等で戸外に出るよう支援している。しかし、職員体制や急な利用者への対応等で希望に添えない時もあるが、できるだけ時間を設けて応じる努力をしている。		特に希望が出ない方にも外出の機会を作り、戸外に出かけるようにしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 十分でないかもしれないが、そういう対応をしている。また、Aユニットに比べると外出している人の割合も多い。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 同様にしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンスで取り上げたこともあり、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむ終えない場合は家族と話し合い必要最小限の方法にし、拘束廃止に向けて定期的に話し合いを持つようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 同様に取り組んでいる。  (外部評価) 玄関は昼間開錠しており、職員は利用者個々の行動を把握している。また必要時、職員の一人は入口近くにいるように連携プレーができており、現在は利用者は落ち着いている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 同様にしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個人の状態に合わせて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 基本的な応急手当の講習や消防訓練は年1回は行っているが、実際にその様な事態になった時に全職員が落ち着いて対応できるほどにはなっていないと思う。		回数を重ねることでより落ち着いて対応できるようになると思うので、繰り返し講習や訓練を行っていきたい。




自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との協力関係作りがまだほとんどできていない。  (外部評価) ホーム内での訓練は昼夜とも実施し、マニュアルも作成しているが、地域との協力関係づくりはまだできていない。	※	地域の人々の協力を得るための働きかけがまだ不十分なので、今後交流をしていくことで協力を得られるような関係作りをしていきたい。  地域の人々の協力を得るための働きかけを早急に検討することを期待する。運営推進会議等で具体的に問題提起し、協力案をつくり進めることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 理解力の低下や運動機能の低下から事故につながる可能性が高かったり、病状が急変する可能性がある方など状態の変化に応じて家族と対応について相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定だけでなく普段との様子の違いに注意するようにし、何か気がついた時は申し送りノートに記入するなどして情報を共有し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬について、薬局から出されている説明文を個人ファイルに閉じてあり、必要に応じて確認できるようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り各利用者の傾向をつかむと同時に、食事や運動だけでは排便につながらない場合の下剤の使用量や使用間隔の参考にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の形態や水分摂取の回数など個別の対応が必要な方にはその様に対応している。  (外部評価) 食事のメニューは職員が交代で作成している。食事の摂取量や水分量はおおまかに把握しており、体重の変化や医療機関のチェックでも管理している。制限食の方は医師の指導で主食の量を加減したり調理に少し工夫したりしている程度である。	※	季節ごと(年4回)に栄養士にカロリー計算等してもらい、栄養バランス等を数値として把握しておくことを期待する。特に制限食の方は管理が必要となるため栄養士の助言を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 使い捨て手袋を使用したり、ペーパータオルを使用したりと、一般的な感染症対策マニュアルを参考に、ホームで実現可能なマニュアルを作り対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理器具は漂白殺菌等をし、食器類は食器乾燥機で乾燥し、食材についても毎日買物に行き、買い溜めや翌日までの作り置きというのも基本的にしないようにしている。材料の賞味期限も随時確認している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関入り口は緩やかな勾配でスロープ状にしていて手摺を取り付けており、玄関周りに草花を植えて親しみやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂・居間がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。 (外部評価) 廊下、居室は広くゆったりしており、ソファや椅子でくつろげる場所が複数ある。植物や絵が飾ってあり、落ち着いたスペースとなっている。食堂はオープンで食事の準備の様子を身近に感じることができる。浴室、トイレ、洗面所、洗濯スペース等物の配置も工夫しており、危険物への配慮もされている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものであれば馴染みの物を自由に持込んで構わないようにしているので、以前使用していたベッドや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。 (外部評価) 利用者の個性が出ており、箆笥、テレビ、洋服かけ、カーペット、人形や花等の飾り類、絵・写真・書等が配置されている。家庭で使用していたベッドや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 同様にしている。		
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内の広さや廊下の幅などは車椅子も利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差もなるべく無くすようにしている。またトイレ・浴室・廊下に手摺を取り付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 共同で利用する場所や個人の居室に名前の表示をし、各所にカレンダーや時計を設置し日時も確認しやすいようにしている。また、個人的にも混乱や失敗を少なくする対応を心がけている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭に物干し場や菜園があり、利用者と一緒に洗濯物を干したり、野菜を植え一緒に育てたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているの、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時などはゆったりと過ごせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	Aユニットに比べ介護度の高い利用者が少なく、食事や入浴の時間以外は比較的本人のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつもとはいかないが、寝たきりの利用者も職員の働きかけで笑顔が見られたりしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族の事情と職身体制上の事情で必ずしも行きたい所へ行くことは出来ない。ただ、本人の意思確認が困難な利用者も車イス介助で近所に出かけたりする機会を作っている。Aユニットに比べると外出している人や頻度も多い。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	平日は、ほぼ毎日訪問診療医の往診があり、24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることができるようになっているので、主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能にはなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできていると思っているが、家族が本当はどう思っているかは分からない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、それ以外の地域の方の訪問はあまり無い。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている ③ あまり増えていない 4 全くいない	この前に第1回の運営推進会議が行われたような状況なので、交流が広がったというのはまだないが、これまでも町内会の方が地区のお祭りや行事の案内をしてくれたりというのはあった。
98	職員は、生き活きと働いている	① ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての職員が個々の健康状態や家庭の事情などで、何らかのストレスを抱えているだろうし、仕事上でも何らかのストレスを抱えていると思うが、仕事ではそういったことを見せないように明るい雰囲気を作るよう努力して働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者自身のあきらめのような納得があるのかもしれないが、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	これも上記と同じく、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価) グループホームは家庭的といっても、一般的な認識ではやはり施設と考えられているので、やはり家庭的な雰囲気というものを大切にしていきたい。どうしても施設に近づいて行事や普段の生活も集団行動的になっていく傾向があると思うので、安心してくつろげる家庭という雰囲気を大切にしていきたい。